

研究・調査報告書

報告書番号	担当
442	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学
題名 (原題/訳)	
<p>Association between alcohol consumption and carotid intima-media thickness in a healthy population: data of the STRATEGY study (Stress, Atherosclerosis and ECG Study).</p> <p>健康者集団におけるアルコール摂取と頸動脈内膜中膜複合体との関連: STRATEGY 研究 (Stress, Atherosclerosis and ECG Study)</p>	
執筆者	
Zyriax BC, Lau K, Klähn T, Boeing H, Völzke H, Windler E.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Eur J Clin Nutr. 2010 Oct;64(10):1199-206.	
キーワード	
アルコール、IMT、危険因子、生活習慣	
要 旨	
<p>背景/目的:</p> <p>疫学的エビデンスにより適度なアルコール摂取の心血管イベント予防効果が示唆されている。しかしながら、アルコール摂取量と潜在性アテローム性動脈硬化症のマーカーである内膜中膜複合体 (IMT) との関連を検討した研究結果は一致していない。本研究の目的は、Stress Atherosclerosis and ECG Study (STRATEGY study) データの分析により、アルコール摂取量と IMT との関係を健康者集団において明らかにすることである。</p> <p>対象/方法:</p> <p>年齢階級が 30~70 歳で均等に分布している 106 人の男性と 107 人の女性において検査値、身体計測、食習慣や身体活動データが横断的に収集された。頸動脈 IMT は、ポメラニアの健康に関する研究で用いられている標準的プロトコルに従い、B モード超音波検査で実施された。</p> <p>結果:</p> <p>男性では、毎日のアルコール摂取量と IMT の間に有意な正の相関 ($P<0.0001$) が認められたが、女性では認められなかった。アルコールの種類によらず、この結果は同様であった。平均 IMT はアルコール摂取量の上限 20 g/日を超える男性で、20 g/日未満の男性に比べ有意に厚かった ($P<0.001$)。年齢、古典的危険因子、栄養、身体活動を調整したステップワイズ線形回帰モデルにおいて、アルコール摂取量 21.4g/日増加当たりの IMT 増大は男性で 0.0253 mm であった ($P<0.05$)。</p> <p>結論:</p> <p>STRATEGY 研究は、健康な 30~70 歳の男性においてアルコール摂取量と頸動脈 IMT との正の関連を明らかにした。この関係は、栄養、身体活動、身体計測指標、古典的心血管危険因子を調整後も有意であった。</p>	